

# 12月のまちの話題

## 大西武雄さんが瑞宝単光章を受章

「先輩の指導や後輩の応援、家族の理解があったからこそ」

秋の叙勲で瑞宝単光章を受章された大西武雄さん(表町)に十二月七日、役場町長室で伝達式が行われ、瀬戸北海道胆振支庁副支庁長から勲記と勲章が伝達されました。

大西さんは、昭和三十年四月に厚真村消防団に入団し、五十三年間の長きにわたり生業を投げ打って、町民の生命と財産を守るため消防業務に精励。平成七年四月から分団長、同十年四月から副団長、平成十四年四月から団長の要職を歴任し、団長に就任中は厚真消防百周年記念式典や町民フェスティバル、記念碑の建立に実行委員長として手腕を振るいました。伝達後大西さんは「この受章は自分一人のものだけでなく、先輩の指導や後輩の応援、家族の理解があったからこそ。皆さんに感謝したい」と晴れやかな表情で話していました。



伝達式で勲記を受け取る大西武雄さん

## ココナッツがポイント スリランカカレーを手で味見

町国際交流協会主催(館山審会長)では十二月四日、総合ケアセンターゆくりで異文化交流事業「手で食べるスリランカカレーづくり」を行いました。料理づくりを通して外国の文化に触れようと今年で四回目の同事業。

苦小牧駒澤大学の金内花枝准教授とスリランカなど三方国から留学生五人の協力で、「手食文化」についての講話や料理づくり、手で食べる試食を行いました。参加した主婦など二十人は、流ちょうな日本語で話す留学生の手ほどきでココナッツを入れることがポイントのスリランカカレーとサラダを厚真産の鶏肉や野菜などの食材を使って完成させました。金内先生の講話によると、世界の人口の四十%が手で食べる食習慣だといひ、参加者は留学生に食べ方を教わりながら出来上がった料理を手を使い食べていました。



留学生の手ほどきで手を使ってカレーを食べる参加者

## 助け合いの思いのせ 恒例のチャリティー演芸大会

歳末恒例の厚真町婦人団体協議会(藤本昭子会長)による第33回歳末助け合いチャリティー演芸大会が12月1日、総合福祉センターで行われました。団体・個人が1年間練習を積み重ねてきた演芸に、会場を訪れた町民から拍手と喝采が送られていました。2度目の出演となる宮坂町長は、新人職員2人とともに吉田拓郎さんの「結婚しようよ」を披露。「少子高齢化の時代、1組でも多く結婚しようよ」とメッセージを投げかけていました。このイベントの益金は社会福祉協議会に寄付されました。



息合った大正琴の演奏と宮坂町長(左上)



自分たちが作った料理を紹介する児童

## 感謝の気持ちを込めて おもてなし とみ小まつり

富野小学校(吉田裕二校長)で12月2日、日ごろお世話になっている地域の方を招待し「とみ小まつり」が同校体育館で行われました。「感謝の気持ちを込めておもてなし」をテーマに、児童たちが学校農園で収穫した野菜などを材料に各学年ごとにカボチャスープ、ヤーコン入り千切りサラダ、肉ジャガなど計6品の料理を作り、招待した方々をもてなしました。手作りのペン立てやアルバムのびっくりプレゼントもあって、会場は子どもたちの心のこもった気配りに温かな雰囲気包まれていました。

## 「起こることすべてを楽しんで心豊かに」

軽舞小学校PTA文化委員会主催による家庭教育学級が12月3日、ワハハ本舗に所属するコアラゲンはごまんさんを招き同校で行われました。

コアラゲンさんは、近藤学志さん(上厚真)と親交がある芸人で、近藤さんの取り計らいで講演が実現。全国をめぐり歩いた地域に密着した漫談を披露し、会場に詰めかけた100人の来場者の笑いを誘いながら「日常ではつらいかもしれないが、それを楽しめる心豊かな人になって」とエールを送っていました。



## 夜のお遊戯会 京町保育園で

京町保育園(加藤恒光園長・役場町民福祉課長)では12月4日、延期になっていた年長のキリン組のお遊戯会が午後6時開演により行われました。

新型インフルエンザの影響による学級閉鎖のため、11月14日のお遊戯会に年長組の園児は出演することができませんでした。

年下のパンダ組園児の応援を得て家族が見守る中、キリン組園児たちはミュージカルや歌、踊りなどを元気いっぱいステージ上で演じていました。



クリスマス会(佐藤泰夫園長)では十二月五日、クリスマス会が行われ、町民吹奏楽団(松下一彦団長)二十人が同園を訪れ園児たちや保護者にクリスマスソングメドレーなど音楽のプレゼントをしました。同楽団は、毎年暮れに町内の保育園を訪問し園児たちに生の音楽を聴く機会を提供しています。アニメソングの演奏では園児たちも音楽に合わせて手をたいて歌っていました。

## 町民吹奏楽団から クリスマスプレゼント



北海道電力(株)東厚真発電所(成田雅則所長)が長年にわたり献血運動に功労があったとして、日本赤十字社から感謝状と金色有功章(楯)が贈られ十二月四日、同所で古川副団長が成田所長に伝達しました。同所は、献血運動に継続して二十五年間、協力回数七十五回、延べ二、一五〇人を超える献血の協力をしており、平成十五年の銀色有功章の受章に引き続きの功労となりました。

## 北電東厚真発電所へ 献血功労で表彰



道南大会を制し全道大会に出場する選手と保護者

## ひまわりバレー道南大会制し全道へ

厚真ひまわりバレーボール少年団（立石恵輝監督）が11月7、8の両日、苫小牧市で行われた第29回道新カップ北海道小学生バレーボール大会道南大会男子・男女混合の部で優勝し、1月9日から3日間の日程で江別市で開催される全道の強豪がそろった第26回北海道小学生バレーボール選抜優勝大会への出場権を獲得しました。同少年団は昨年引き継ぎ道南大会の優勝ですが、道大会では予選を勝ち抜いたものの決勝トーナメント1回戦で惜しくも敗退。立石監督は「選手には『ベスト4目指して頑張ろう』と話しているんです」と抱負を話していました。

## ともしび キャンドルの灯の中メリークリスマス

社会福祉法人北海道厚真福祉会（岩筋雅弘理事長）のリハビリセンターと豊厚園のクリスマス会が12月16、17日の両日、同施設で行われました。16日に行われた同センターのクリスマス会では、岩筋理事長が「施設に入居されている皆さんには、安心できる生活、楽しい生活を送っていただきたいと思っています。今日は一番楽しみにしている行事。十分に楽しんで」とあいさつ。ツリーや電飾が施された華やかな雰囲気の中、入居者の皆さんはテーブルいっぱいのごちそうを頬張り、演芸ボランティアの方々によるアトラクションを楽しんでいました。



阿蘇美紀子社会福祉協議会副会長の発声で乾杯



面棒で生地を伸ばす作業をする6年生

## 私たちが育てた粉でそば打ち

厚真中央小学校（刑部守敬校長）の6年生28人が12月18日、こぶしの湯あつまでそば打ち体験をしました。同校6年生は、総合的な学習で学校園でそばの実を栽培し観察。秋にみんなで収穫した300グラムのそば粉も混ぜてのそば打ち。ほとんどの児童が初めての体験で、北島千鶴子インストラクターの手ほどきでそば打ちの一通りを学びました。

松永百華さんは「そば打ちには、こねたり、延ばしたり、切ったりする作業の中でいろいろなコツがあるのがわかりました。楽しいです」と話し、出来たてのそばを味わっていました。



優秀賞を受賞した菊池弥生さん（中央）

## 菊池弥生さん(厚南中3年) 人権作文コンテストで優秀賞

第29回全国中学生人権作文コンテストで厚南中学校（高畑邦男校長）の菊池弥生さん（3年生）が苫小牧地区大会で優秀賞に輝き12月4日、同校で伝達式が行われました。本町の人権擁護委員・高田真知子さんや高畑校長などが見守る中、西下昭一札幌法務局苫小牧支局長から菊池さんに表彰状と記念品が手渡されました。菊池さんは「みんなが幸せになることをテーマに作文を書きました。正直、賞をもらえるとは思っていませんでした。支局長さんなどが来てくれて賞の重みを実感しました」と笑顔で受賞の喜びを話していました。

## 助け合いと物を大切に使う趣旨で今年も

町コミュニティ運動推進協議会（松井満男会長）では12月1日、恒例の「歳末コミュニティ不用品即売会」を総合福祉センターで行いました。歳末助け合いと物を大切に使う趣旨に賛同した町民の方々から寄せられたたくさんの衣料品や日用品などを、同日即売会に協力するコミュニティ推進員の皆さんが前日からディスプレイなどの準備を進めてきました。当日は、開店から多数の町民が会場に足を運び、袋いっぱい買い求める姿が見られました。売り上げの6万円は4日、松井会長から社会福祉協議会に寄付されました。



手にとって品物を見定める来場者の皆さん

## 振り込め詐欺にはまだまだご注意を！

町や町交通安全推進委員会などによる平成21年度交通安全・防犯町民集会在12月11日、総合福祉センターで自治会や関係団体などから約80人が参加し行われました。

集会では、最近の交通事故情勢や振り込め詐欺などについて、苫小牧警察署交通第一課矢萩企画係長と同署生活安全課佐々木生活安全第一係長を講師に迎え理解を深めました。振り込め詐欺について講話した佐々木係長は「振り込め詐欺はみんなが知っている犯罪だがなかなかなくならない。他人事と思わずに気をつけて」と訴えていました。



佐々木生活安全第一係長による講話

## 外は寒いがスポセン熱く ミニバレーで

町教委が主催する第18回ミニバレーボールウィンターリーグが36チーム227人が参加しスポーツセンターで11月30日に開幕し4日間にわたり行われました。本町の1年を締めくくる師走のスポーツ競技の代名詞となった同リーグは、外の寒さとはうって変わり熱い戦いが繰り広げられていました。【成績は次のとおり】Aリーグ／優勝・祝110周年富野小学校（山家拓也）、準優勝・グリーンストーンズA（南幸男）、3位・マーボーレインボー（木戸大輔） Bリーグ／優勝・マーボーゴールド（内山秀司）、準優勝・笑って良き友（幅田章夫）、3位・マーボーピンク（吉岡奈々）【（ ）内は代表者・敬称略】



決勝トーナメントでの熱戦

## 厚真町の新しい顔に 初代観光大使に林恒宏さん就任



初代観光大使に就任した林恒宏さん

「厚真町で...」の文字が入ったサーフボードを背負って、本町のPR活動を独自に取り組まれている、札幌国際大学専任講師・林恒宏さん（三十六歳）が、町が新たに設置した観光大使に就任しました。

林さんは、臨海地区にあるサーフィンなどの地域資源を活用した活性化を検討している役場若手職員による「あたらしいなみプロジェクト」と意見交換したことをきっかけに、札幌市内中心部や首都圏各地でPR活動を展開してもらっていました。

林さんへの委嘱状の交付は、十二月二十二日に同大で行われ、古川副町長から「厚真の知名度が二段も三段も高まった。ありがとうございます」と感謝の言葉が伝えられました。これを受けて林さんは、「天の利、地の利、人の利を得て厚真町と出会った。ブランドの確立を通して町に貢献し、より住みたいまちづくりを手伝いたい」と熱く抱負を語られました。

林さんはこの年末年始、本州各地で本町のPR活動を予定しています。